

温暖化防止ながれやま便り

第55号 2025年3月

NPO 温暖化防止ながれやま
代表 増永 弘
流山市西平井2-16-7
編集 筒井 義憲

令和6年度第4回市民環境講座 らんま先生のパフォーマンスショー



令和7年2月16日（日曜日）、文化会館で第4回市民環境講座「らんま先生の環境エコパフォーマンスショー」が行われました。市民環境講座は、市から市民団体「温暖化防止ながれやま」が受託している事業です。今回は91組の小学生と保護者の方が参加しました。

実験だけでなく、SDGs（持続可能な開発目標）に関する講義や大道芸の披露を交え、楽しく地球温暖化について学びました。また、ギネス世界記録に認定された世界一のeco空気砲は、披露だけでなく参加した子どもたちの一人ずつが実際に空気砲を打つ体験をしました。



今回は、水と環境に関する実験やジャグリング、世界一のeco空気砲などのパフォーマンスが行われました。らんま先生の助手には参加者から選ばれた子どもや保護者が務め、一緒に実験を行い会場は大いに盛り上がりました。



参加した子どもたちからは、「楽しかった」や「らんま先生のお話が面白かった」そして「環境について勉強になった」などの感想が寄せられました。また、保護者からも「地球温暖化に関して子どものためになった」といった感想も寄せられました。



暮らしのSDGs 学習会

第206回

暮らしのSDGs 学習会

北海道北斗市のバイオマス発電について

講師：山崎克美氏

(元京葉ガスエネルギーソリューション社長)

2025年1月16日（金）に生涯学習センター3階 大会議室において北海道北斗市のバイオマス（木質系）発電について山崎克美氏より北海道北斗市におけるバイオマス発電について講演頂いた。

<山崎氏の講演内容は以下の通り>

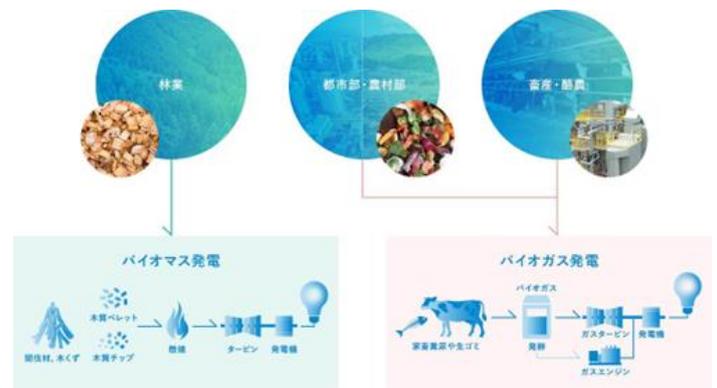
京葉ガスエネルギーソリューションは、京葉ガスがプラントで製造したガスを都市ガスとして供給していた時代に、プラントの維持管理を中心にガス施設等の設計・建設・維持管理の事業を行ってきたが、都市ガスがLNG主体となりプラントが減少したことから再生可能エネルギー関係の事業を拡大し成長してきている。具体的には、太陽光、小水力、バイオマス等の発電事業を行っており、今回説明する北海道北斗市のバイオマス発電もその一つである。

バイオマス発電は、生ゴミ等の廃棄物を利用する発電（バイオガス発電）と間伐材等の木質系燃料を利用する発電があり、北斗市の発電は木質系燃料を使用している。 ⇒

経済産業省が作成した第7次エネルギー基本計画原案の中で、2040年度には再生可能エネルギーによる発電量を全体の4~5割程度にしているが、バイオマス発電では燃料として使用する木質系チップの調達に難があり、国全体でみて稼働率が悪くなっている状況がある。北斗市の発電所は、2020年操業開始で出力は1990Kw、システムは単純で木質系チップの燃焼で蒸気を作り、タービンを回して発電する。但しチップの乾燥度合いや材質等によって燃焼温度に変化があり、慎重な運転が必要である。

発電した電力は、認定を受けて固定価格で販売することが可能で40円/Kwh（税抜き：期間20年）となっている。

なお、廃棄されたり、森林に放置されたりする木質系材料を購入、燃料に使用することで森林の保護等に寄与し、温暖化防止に役立つと考えている。



第207回

暮らしのSDGs学習会

日本は2050年カーボンニュートラルを実現出来るか、について自由討論

進行担当 筒井 義憲 (OBN 会員: 学習会担当)

2025年2月14日(金)に生涯学習センター3階 大会議室において、日本は2050年カーボンニュートラルを実現出来るかについて、「1.5°C目標達成への世界や日本のCO2削減の経路(千葉県温暖化防止活動 推進員研修(2024年12月2日)資料、「COP29 閉幕に関する記事(国立環境研究所社会システム領域からの記事)」などを参考資料として、自由討論を行った。

最初に学習会担当から、上記参考資料の内容を説明し、いずれも1.5°C目標達成は厳しいという論調であるとして、出席者の意見を求め、討論に入った。

(以下、主な意見)

世界の気候変動対策は、京都議定書に始まりパリ協定へと続いた。しかし、京都ではCO2排出削減が義務付けであったが、パリでは目標

設定にと留まっており、対策が緩和されている。また、COPの会議も世界の会議で似たような会議に出席したことがあるが、参加者は各国知人同士のような感じだった。

既に世界の平均気温の上昇は、1.5°C近くになっており、今のような状況では、達成は厳しいのではないかと感じる。

状況は厳しいが、各自が出来ることをコツコツとやるのが大切だ。

COPの会議そのものが、人が集まり過ぎて、非生産的だと感じる。もっと成果が上がるよう人数を絞り効率的な会議にすべきと感じる。

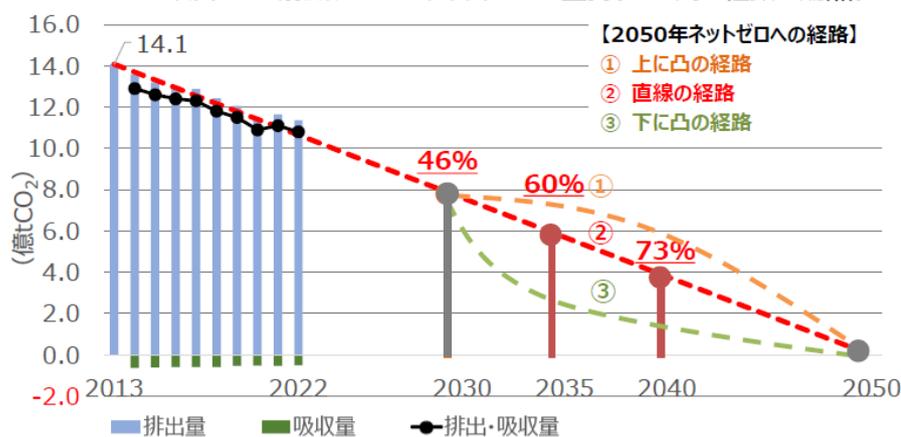
世界の国別人口やエネルギー供給量を見ると、中国・インド・アメリカなどが圧倒的に多く、アメリカはトランプ政権になったこともあり、今後の気候変動対策は、非常に厳しくなると思われる。将来が不安。

COPの会議が気候変動対策の資金支援の取り合いになっているような感じで、気候変動対策のために方策の議論があまりないような気がする。

確かに日本の現状を見ると厳しい感じを受けるが、更に努力を続けることが必要。

日本の排出削減の現状と次期NDC (Nationally Determined Contribution) 水準

2030年度46%削減、2050年ネットゼロを堅持。その間の経路が論点。



NDCについての代表的な見解

①上に凸の経路

・ 技術の革新が生まれ、排出削減が将来加速することを踏まえると、上に凸といった考えもある。

②直線の経路

・ 2050年ネットゼロと整合的な道筋を示し続けることが、企業・社会にとって予見可能性を高める。

③下に凸の経路

・ 世界平均以上の目標を掲げるという姿勢を示すことで、はじめて途上国が動く。

2030年度から先の削減目標、削減経路については、多様なご意見があったところ、**2050年ネットゼロ実現に向けた我が国の明確な経路**を示し、排出削減と経済成長の同時実現に向けた予見可能性を高める観点から、**直線的な経路を軸に検討を進めること**でどうか。

第208回
暮らしのSDGs学習会
日本におけるSDGsの取組について考える
(自由討論会)
進行担当 筒井 義憲 (OBN 会員: 学習会担当)

2025年3月14日(金)に流山市生涯学習センター3階大会議室において「日本のSDGsの取組について考える」をテーマに自由討論を行った。

参考資料として、「持続可能な開発目標 (SDGs) と日本の取組 (外務省)」、「持続可能な開発目標 (SDGs) 活用ガイド (企業向け: 環境省)」、「SDGsの5つのPについての説明資料」を準備し、学習会担当から、上記参考資料の内容を説明し、日本の取組についてどう考えるか出席者の意見を求め、討論に入った。

(以下、主な意見)

いろいろな政府機関でSDGsの取組を行っているようだが、何がどこまで進んでいるのか分からないので、もう少し情報提供して欲しい。
 ⇒その後スマホで調べた結果、世界の評価 (SDSN JAPAN 発表) で日本の達成度は世界で18位と向上していると、その場で会員から報告がありました。

住んでいるマンションの照明をすべてLEDにしたが、マンションの共用部の照明は明るすぎるので、減らすことも考えるべき。

一般の蛍光灯は販売されなくなるが、電力需要減少には寄与する。

再生利用可能な商品にはいろいろな表示があるが、SDGsに関しても何らかの表示がある良い。

エネルギー利用や温暖化防止の観点から考えると、最近第7次エネルギー基本計画が閣議決定されたが、原子力を重視している。また、再生可能エネルギーの比率を多くしているが、今の状態では実現性に乏しい。

再生可能エネルギーは天候に左右されるところが大きく、ダム等による水力発電も火力・原子力等のベース電源の補完に使われてしまっている。

最近のトヨタのハイブリット車は、家庭用AC電源として利用できるコンセントが付いていて、停電時等の対策が進んでいると感じる。

SDGsの目標には一人ひとりが取組みやすい項目が少なく取り組みにくい。

SDGsを名目にして、レストラン、スーパーなどで(基本的な取組みは不十分で)サービスの低下を行っているような感じがする。



日本のSDGsの17目標ごとに最新(2024年報告書)の達成度を評価した図 アイコンの赤は「深刻な課題がある」、オレンジ色は「重要な課題がある」、黄色は「課題が残る」、緑色は「達成済み」。矢印は前回(前年)からのスコアの変化。
 <目標> 1. 貧困 2. 飢餓 3. 保健 4. 教育 5. ジェンダー 6. 水・衛生 7. エネルギー
 8. 経済成長と雇用 9. インフラ、産業化等 10. 不平等 11. 持続可能な都市
 12. 海洋資源 13. 気候変動 14. 海洋資源 15. 陸上資源 16. 平和 17. 実施手段